

一 等雨法雨の事

仰せに云はく、等とは平等の事なり。善人・悪人・二乗・^{せんたい}闍提・正見・邪見等の者にも、妙法の雨を惜しまず、平等にふらすと云ふ事なり。されば法の雨を^{ふら}雨すと云ふ時は大覺世尊^{ふら}ふらしてに成り玉へり。さて法の雨^{ふら}ふりてと読む時は、本より実相平等の法雨は常住^{ほんぬ}本有の雨なれば、今始めてふるべきに非ず。されば諸法実相を、^{ひゆほん}譬喩品の時は風月に譬へたり。妙樂大師は何ぞ隠れ何ぞ顕はれんと釈せり。常住なり、実相の法雨は三世^{じょうごう}常恒にして^{おんけん}隠顕更に無きなり。所詮等の字はひとしくとよむ時は、釈迦如来の平等の慈悲なり。さて、ひとしきとよむ時は平等^{だいえ}大慧の妙法蓮華經なり。等しく法の雨をふらすとは^{のうく}能弘につけたり。等しき法の雨^{ふら}ふりてと云ふ時は^{しよぐ}所弘の法なり。所詮法と云ふは十界の諸法なり。雨とは十界の言語^{おんじょう}音声の振る舞ひなり。ふるとは自在にして、地獄^{しねんみょうか}は熾燃猛火、乃至仏界の上の所作の音声を等雨法雨とは説けり。此の等雨法雨の^{ほつたい}法体は南無妙法蓮華經なり。今末法に入りて日蓮等の類の弘通する題目は等雨法雨の法体なり。此の法雨、地獄の衆生・餓鬼の畜生等に至るまで同時にふりたる法雨なり。日本国の一切衆生の為に付嘱し給ふ法雨は題目の五字なり。所謂日蓮建立の御本尊、南無妙法蓮華經是なり云云。方便品には「本末究竟等」と云へり。譬喩品には「等一大車」と云へり。此の等の字を重ねて説かれたり。或は「如我等無異」と云へり。此の等の字は宝塔品の「如是如是」と同じなり。所詮等とは南無妙法蓮華經なり。法雨をふらすとは、^{こんじん}今身より^{たも}仏身に至るまで^{いな}持つや否やと云ふ受持の言語なり云云。